

平成26年度第4回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 平成26年11月13日(木) 午後2時～4時30分
- 2 会 場 中央図書館会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員： 10人 傍聴者：0人
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務担当係長、調査担当係長、
サービス担当係長、資料担当係長、花小金井図書館長、
小川西町図書館長、仲町図書館長、津田図書館長
- 4 配布資料 資料は省略させていただきます。
- 5 議事
 - (1) 報告事項
 - ① 図書館運営状況について
 - ・図書館行事等の報告と今後の予定(資料No.1)
(これまでの報告)
 - 9月27日 図書館友の会主催講演会「川本三郎さん、漫画を語る」
川本三郎氏 中央図書館
 - 10月 5日 小平図書館友の会総会
 - 10月 8日・15日 児童文学紀行講座「絵本で旅するイギリス」
中央図書館
 - 10月18日 ブックリサイクル(全館)
 - 10月22日 講演会「親子で楽しむ!あそび歌・パネルシアター」
後藤紀子氏 東部市民センター集会室
 - 11月 1日 講演会「赤毛のアンの世界」 松本侑子氏 中央図書館
 - 11月11日 上田市視察 中央図書館
 - (今後の予定)
 - 11月29日 原田マハ講演会 中央図書館
 - 12月 4日 おたのしみ会(全館)～17日
 - 1月 5日 第35回ふるさとの新聞元旦号展 ～22日
(中央図書館→上宿図書館→大沼図書館)
 - ・録音図書貸出用携帯型タブレット端末の活用について
ホームページ等で周知する予定。
 - ② 職員の人事異動について(資料No.2)

10月1日付で仲町図書館への異動を含め5人の異動があった。これで仲町図書館は、仲町図書館長を含め5人で準備に入る。

③ 教育委員の就任について（資料No.3）

山田大輔委員の委員長職務代理が再任された。

④ 平成25年度決算特別委員会について

図書館について3人の議員から4件の質問があった。

1点目は、国分寺市との連携の状況についての質問で、小平市民の利用は国分寺市民の約2.5倍になっている。国分寺市は大きな中央図書館がないことと、小平市は生活圏に近い本多図書館を利用したいという双方の要望が実現した結果になった。

2点目は、新仲町図書館の在り方で、市内での議論の方向性についての質問に対し、関連課9課で地域活性化検討委員会を設置しており、昨年度4回開催し、なかまちテラスの事業の検討を行なったと答弁した。

3点目は新仲町図書館のこれまでの経緯はの質問に対し、最初の方針の決定、プロポーザル方式による設計業者の選定、旧仲町図書館の解体工事、改築工事から竣工までを時系列に答弁した。

4点目は、平成25年度の若い世代への利用としてどのような事をしたか、また、地域の居場所としてはどのような役割があると考えているかの質問に対しては、平成25年度は新しい事業は行っていないが、ティーンズコーナーを各館で設けていることと、なかまちテラスにおいても学校図書館支援の中心館として今後の充実に努めていきたいと答弁した。

⑤ 平成25年度小平市の行政評価について（資料No.4）

小平市自治基本条例により行政全体の中での評価として数的な評価となっている。図書館の評価は、今年度から全体的に内容の見直しを行ない、施策評価では施策の概要、施策の成果指標と実績、施策の成果の総括、施策の方向性を明確にして、事業の再編や重点化に役立てている。また、成果指標ではレファレンス件数、貸出資料数、地域に関する資料所蔵数、図書館ホームページアクセス数の4点を掲げ、平成28年度を最終目標として施策を展開していく。

事務事業評価は、事業の目的、事業のコスト、事業目的を達成するために行政は何を行っているのか、事業目的が達成されているかどうか、活動や成果に対するコストは適正かというポイントが確認できる。全事業において目標値に対し実績値は、「ほぼ達成」となっているが、「効率性の上がった事業」は6事業、逆に「効率性の下がった事業」は5事業となっている。

⑥ 仲町公民館・仲町図書館改築工事の完了について

なかまちテラスの改築工事については、10月31日に竣工し、現在建物及び設備の検査を行っている。11月20日に鍵の引き渡しがあり、施設に入れるようになる。今後、備品の納品が始まり、本の移動は1月末を予定している。2月下旬には全ての機器類、備品等が揃う予定である。

また、なかまちテラス未来づくり実行委員会と武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科学生との連携で実施した、なかまちテラスPRイベント「あっちこっちナカマツチ」では、119人の参加者があった。そこで作成された100体のキャラクターの一部を、津田塾大学のサークルが実施している「まちチョコ」のラッピングに使用し、なかまちテラス近くの商店会で「まちチョコ」を販売する予定になっている。

⑦ なかまちテラスについて（資料No.5）

建物が完成し、平成27年3月にリニューアルオープンを予定している「なかまちテラス」について、生涯学習の振興と地域活性化の両面から、なかまちテラスに関連する事業の組み立てを整理し、全体像を示すことにした。

1 関連事業について

目指す効果としては、公民館、図書館の連携、学習成果の地域還元、利用者の主体性を尊重した学習活動の展開からの生涯学習の振興と、人が育ちネットワークが広がる効果、地域経済に波及する効果、シティセールスの効果に向けて機能することで地域の活性化が期待される。

取組の主体は、市民の主体的な取組が重要であり、LiNKS（リンクス）プロジェクトなどでは、多くの方々の参加があり、活動の担い手になりつつある。他方行政は、維持管理や運営管理、活動支援やコーディネートを担っている。さらに、なかまちテラスがその価値を最大限に発揮するためには、協働による取組みが欠かせないと考えている。

事業の客体となる対象は、従来からのユーザーと新規のユーザー、はじめて訪れる来館者の3つに区分する。そして、多様な可能性が期待できるためバランスに配慮して、事業を進めていく。

実施時期は、オープン前後の短期的取組と、その後の中長期的に実施する継続的取組に分けられる。

2 事業の全体像

効果を7つの項目の施策分野に分け、個別事業として示している。

3 事業の概要

施設運営では、開館時間拡大の試行として、新仲町公民館の休館日は、祝日を除

く毎週月曜日としていたものを、第3木曜日のみとし、新仲町図書館は、午前10時開館としていたものを午前9時に早め、火曜日、水曜日については、午後7時閉館としていたものを午後8時とする。休館日はこれまでと同様に毎週金曜日及び第3木曜日とする。新仲町公民館・図書館全体の休館日を第3木曜日とし、施設等の保守点検等を行うこととする。開館時間の試行期間は平成27年度末までとし、これに合わせて、中央図書館では月曜から木曜日を、花小金井図書館、小川西町図書館では火曜、水曜日を午後8時まで、開館時間の試行延長を行う。また、職員業務の共通化、公民館・図書館の相互乗り入れ事業として、公民館・図書館の窓口については、嘱託職員を含む公民館職員と図書館職員が共通の業務を行い、独立して開催していた行事等についても、相互乗り入れ事業を展開していく。

設備機能では、図書館にICT設備の導入としてワイファイ機能の整備、商用データベース、ブック・ディテクション・システム及び自動貸出機の導入、デジタルサイネージの設置を予定している他、閉館時貸出ロッカーも設置する。カフェラウンジについては、障がい者団体による運営でサービスの提供が行えるよう、現在協議を進めている。その他、学校図書館支援として、中央図書館で行っている学校図書館に関することや学級文庫用団体貸出業務を仲町図書館に移管する。

開館記念では、平成27年3月13日（金）に開館式典を開催し、3月14日（土）から利用開始とする。現在開館中の仲町公民館は、平成27年3月8日に閉館の予定で閉館イベントを企画している。

市民の参画では、なかまちテラスLiNKs（リンクス）プロジェクト事業として市民と職員が連携して事業の企画、実施を行いとともに、新たに活動するサークル（社会教育団体）を育成し、その活動を支援する。

周辺整備では、なかまちテラスの北側を流れる小川用水の親水整備や、東側の道路整備、施設内に9台、その他に土地の借り上げにより5台収容可能な駐車場を設置する予定である。また、カフェラウンジに設置されるデジタルサイネージを活用し、小平市の地域資源等の魅力を発信する他、にじバスの停留所の名称を「仲町公民館」から「なかまちテラス」へ変更する。

産業活性化では、東京都の「地域資源発掘型実証プログラム事業」における観光モデルルートに「なかまちテラス」を含めたルートが検討されている。また、商店街の活性化を図り、なかまちテラス開館の機運を盛り上げるため、仲町周辺の商店会組織が「仲町まちなめぐりスタンプラリー」を実施し、その支援をしていく。

広報では、なかまちテラスの周知として、これまでも解体から建築工事に至る写真を市ホームページに掲載するほか、なかまちテラスの模型を図書館・公民館に展示している。今後は、市報に「なかまちテラス」についての記事を定期的に掲載するとともに、開館特集号を3月5日に発行する。また図書館では、妹島和世氏のデザインによる建物を目的に来館する方に向けて、130冊程度の関連書を集めた「妹

島和世さんのコーナー」を設置する。さらに、平成27年1月の実施を目途に武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科の学生と調整し「にじバスラッピング」と「小平駅南口看板」の製作作業を行っている。

〈報告事項についての質疑・応答〉

委員：にじバスの停留所を、青梅街道沿いに移せないか。

事務局：名前の変更はできるが、位置の変更となると国への届出が必要で相当難しいと、担当課から聞いている。

委員：なかまちテラスの開館時間を延長することは分かるが、他の図書館でも同時期に行くと負担が大きいのではないか。このタイミングで行わないとだめなのか。

事務局：検討はしたが、要望もかねてからあるということと、自館で運営していく中で、どこまでできるかという試みがある程度行っていく中で、費用対効果と市民サービスを考えるとこれがベターな方法であることで決定した。また、ワイファイ機能の導入についても議論があり、いろいろな会社があつてA社は使えるが、B社は使えないなど、導入について公平性が担保できるのかということ、小平市としても導入に踏み切れなかった。しかし、新しいサービスが出始めてきており、すべての会社が使える状況になってきたので、それを契機に仲町図書館で実施し、来年度は、中央図書館でも導入を検討している。

委員：ワイファイが、なかまちテラスの中で使えるということは、カフェラウンジの中でも使用できるのか。

事務局：使用できる。

委員：カフェラウンジには利用者が使える電源コンセントはあるのか。

事務局：電源はない。

委員：駐車場の台数の話はあつたが、自転車駐輪場は何台止められるのか。

事務局：45台になる。

委員：市民講座がある場合などで、他に駐輪できる場所はあるのか。

事務局：どの程度利用者が来るか分からないところはあるが、場合によっては近場で駐車か駐輪ができる場所を探すことも検討している。

委員：図書館見学で、未就学児ということでは鷹の台幼稚園の年長が毎年実施しているようだが、今年保育園で3歳児の見学があつたということが書かれていたので、内容はどのようなものか。

事務局：4月1日から花小金井3丁目にオープンした私立保育園の園長が来て、18名の3歳児が散歩コースになっているので、図書館を見学したい旨の話があつた。まだ実施はしていないが、日程が合えば受けたいと話した。

委員：プログラムの的には読み聞かせを行うのか。

事務局：児童コーナーなどを見学してもらい、絵本の読み聞かせを行う予定である。

- 委員：なかまちテラスについて、有名な建築家の設計だとインテリアとのマッチングが気になる。特に公的機関で行うとそこのバランスがくずれていると、結構がっかりする時もある。今回なかまちテラスのインテリアコーディネイトは、設計事務所側も行ってくれているのか。
- 事務局：全面的に妹島氏に協力してもらっている。設計した後でもかなり力を入れて提案してもらっている。
- 委員：建物の魅力や寿命、建築を学ぶ人たちの参考になるなど色々と躯体的な価値もあると思う。
- 委員：周りにどのような木を植えるかということを考えなければいけない。
- 事務局：設計者の意見を聞きながら行いたい。
- 委員：昔から、武蔵野にあった木や小平にあった木を植えた方がよい。
- 委員：妹島氏をさらに宣伝するようなコーナーについて、建築関連書はあった方が建物を見に来る人にとってはよいと思うが、妹島和世さんのコーナーという名前になるのか。
- 事務局：仮称ではあるが、ご提案があれば伺いたい。
- 委員：小平市としてはお金を払って建てて、その上に宣伝してあげるのであればこの方にとってよい話だなと個人的には思った。
- 事務局：図書館としての機能、資料が重要なので、建物の付加価値的なものをどれだけ上げていけるのか考えていかなければならない。
- 委員：高知に牧野植物園があり、牧野富太郎の蔵書がある。ここのコンセプトは、牧野富太郎の蔵書を入っている、本棚、床板は全部県産の杉しか使っていない。コンクリートは打ちっぱなしで何の装飾もしていない。そこに大きな杉の柱がある。また、植物園なので、木が植えられその木が大きくなると建物が隠れて見えなくなるという回廊式に建物ができている。とてもよい博物館であり図書館になっている。なかまちテラスには何を植えるのか。青梅街道と一体となるもので、そぐわないものは植えてほしくないの、地元にある木を主体にして選んで木を植えて、建物を隠す形が一番よいのではないかという気がする。
- 事務局：植樹については、完了しているが、その点についても配慮している。
- 委員：説明会があった時に話はしたが、自分たちでは何を植えていいか分からないから相談をしたいということ saying it. あまり変なものを植えないとは思いますが得てしてそうなりがちになる。ふるさと村にもあるべきでない木を植える話がたくさんあった。植えてしまうと後からは処理しにくいので考えてほしい。
- 委員：何を植えたらよいかという時に、私は^{からたち}枸橘の木がいいのではないかと話した。とげが鋭く垣根になるし白い花が咲くし入りにくくなるということ話をした記憶がある。
- 委員：今後の運営の問題で、最初から学校図書館支援の中核にしようというかなり大き

な目標として掲げられていたが、単に学級文庫とか、団体貸出の事業を中央図書館から移すだけでなく、是非、各学校の図書館が活性化していく読書推進に知恵を出していくことが目に見えるような運営を今後考えて、色々な情報を発信できるよう工夫をお願いしたい。

事務局：第3次小平市子ども読書活動推進計画の中でも協議をしてもらうが、市をあげての取り組みでもあるので、その中で仲町図書館が中心となった学校図書館の支援があり、仲町図書館ではティーンズコーナー等をどう充実させていくかという試みで、プロジェクトチームを作っているの、それを契機に各地区館でもティーンズコーナーをどうするか検討している。

委員：行政評価について、障害者推進事業で、障がいにより制約されることなく図書館資料を利用できるようにすると書いてあるが、たとえば目が悪くなくてもデジタイズ図書、タブレット端末や大活字本の貸出は、証明がなくても借りることはできるのか。

事務局：大活字本はどなたでも借りられるが、デジタイズ図書は、視覚障害があるなど登録が必要となる。録音図書については障害者手帳が必要になる。サピエではダウンロードでき、個人ユーザーも認められているが、やはり録音図書の利用者としての登録が必要になる。一般の方は、大活字本や朗読用のCD、カセットの貸出ができる。来年度については、宅配サービスを検討しているが、障がいや要介護の程度などを基準に対象を絞っていくことになる。

会長：妹島氏のコーナーは、1、2カ月の開館記念での期間になるのか。常設となると危険だと思う。妹島さんのような立派な建築家のコーナーをいつまでも公共図書館として設置を行うことは、どうなのかなと思う。たとえば1年2年そのくらいならよいが、閉館するまではどうなのか。ある程度先も見越していつまでコーナーを置いておくということは、考えた方がよい。

委員：あっちこっちナカマツチのことだが、100体のキャラクターは固定して決まったのか。

事務局：当日イベントに参加した119名の方々の作品であり、キャラクターをメインになかまちテラスの案内等に使用したい。

委員：チョコレートの販売をしたところはどこなのか。

事務局：仲町の地元商店会で「まちチョコ」を販売している。

委員：開館記念事業の子どもまつりで、大型紙芝居とあるが、これは図書館が所有しているものか。

事務局：図書館で所蔵しているものである。

委員：小平に教育紙芝居を講演している「ともしび」という会がある。月1回ふるさと村で講演している。日本の児童文学から海外の児童文学を中心とした作品で、そこから読書へのかけ橋になると思うので、開館記念事業に参加してもらってはど

うか。

事務局：ご意見として参考にする。

委員：本の箱、帯の問題については、本来、本は箱やカバー、帯があって1つの本でありそれがないものは本ではない。我々が本の解説を書く場合、今の図書館の本では書けないので、そういうものだという意識をもってほしい。

事務局：本の装備についても時代とともに変わってきている。業務委託している中では難しい面もあるため今後研究していく。

委員：昔は貸出票のポケットがあり奥付にそれが貼られ、出版年が分からないことがあった。本を知らない人がやっているとしか思えないので注意してほしい。

委員：腰帯大賞が以前はあった。腰帯から本を読みたいという動機づけになることが多い。非常に重要なものだと思う。

会長：今後の検討をお願いする。

(2) 協議事項

・第3次小平市子ども読書活動推進計画について（資料No.6）

今年度に入り、昨年度の取組、アンケートの調査結果、素案について、毎回協議したことをその都度改訂をしながら作成した基本的な素案になっている。今後の予定として、市議会、教育委員会へ報告し、来年1月から2月にかけてパブリックコメントを行い、2月中旬には正式な計画としてまとめ、年度内に完成する予定でいる。以上が大まかなスケジュールになっている。

前回の図書館協議会と子ども文庫連絡協議会からの意見をもとに修正をした。内容について大きく変わった点は、ティーンズへの取組として、ティーンズコーナーをどのように改革するのかを具体的に記述することと、学校支援が法制化されたことにより、学校図書館協力員の位置づけについてどのように向上させていくのか、充実した学校図書館のさらなる向上についてである。また、前回配付した素案は、図書館が主体になりすぎている傾向があったため、子どものいるあらゆる場所における読書活動の推進計画であること再認識し、図書館ではなく小平市としての取組みによる記述に修正した。前回との変更点、具体的な修正点、新しい施策について本日ご協議いただき、それを盛り込みパブリックコメントを行いたい。

〈協議事項についての質疑・応答〉

委員：アンケート調査の結果のところ、エクセルのグラフが、すべて未回答のグラフが最初になっており、あまり一般的ではないので、多い方からとし、最後の方でその他とか未回答とした方が形式としてよいと思う。また、グラフでの「問5」では、「1か月に平均して本を何冊くらい読みますか。」のところ、電子書籍の後のかっこを除いた方がよい。

委員：アンケートの部分については最後に載せた方が見やすい。

事務局：最後にする方法も分かりやすい。集約だけ本文に入れ、資料として最後にすることも検討した。

委員：検討をお願いしたい。

委員：別表の成長過程に合わせた取組で、それぞれの担当所管課が書かれているのはよいが、一方で指導課と言われたときに指導課が何をやる部署か分からないので、簡単でよいのでどういう部署か分かるようにしたらどうか。関連して「放課後子ども教室推進事業」の充実では、所管課である生涯学習推進課が本文では、抜けている。

委員：関連で、課名が出ている箇所があるが、文章の中に入れてしまった方がよい。

事務局：その部分については統一する。

委員：図書館における読書活動の推進で、小・中学校における学校図書館システム（ソフトウェア）の活用支援とあるが、ハードウェアについてはどうなのか。

事務局：部署が縦割りとなっているためパソコンは学務課が用意し、その中に入れるソフトウェアは図書館がシステムを入れるということでの支援となる。

委員：ソフトウェアと入れなくてもシステムの充実でよいのではないか。

事務局：検討する。

委員：所管課という呼び方がいらぬのでは。連携部局とか連携が必要とする課とかでよいのではないか。

委員：教育委員会なのに何故、児童課が入っているのか。

事務局：これについては、子ども読書活動推進検討委員会という全庁的な横断的組織中で決めていくことになっている。子ども読書活動推進検討委員会の中には教育委員会以外のメンバーも一緒に検討をしている。

委員：素案を検討した時に子ども文庫連絡協議会で、図書館の動きしか感じられない素案で、子どもの読書環境を良くするには、もっと色々な課が取組んで市全体として動かなくては、よいものが生まれてこないという意見を出したのでこの動きが見える計画であってほしいと思う。図書館だけが頑張っても浸透してないような印象がある。

委員：仕事は単純の方がよくあまり細かいと逆に動かない。この書き方であるところの問題は、自分の所管でないということにもなりかねないので、皆でやるという意識があった方がよい。

事務局：子ども読書活動を推進するために個別の事業を組み合わせた形になる。

委員：小・中学校に対する学校図書館協力員の配置・研修を図書館が行っているが、近隣の市を見ても図書館が行っているところは少ない。もしかすると小平市だけかも知れない。本来、学校図書館協力員は学校図書館に入る人だから、学務課とか指導課が担うべき仕事をやっているという現状なので、このようなことも必要で

あると思う。

委員：所管の部署を書かないと、協力してもらえないということも実はある。

委員：今までの流れもあるが、もう一工夫考えてもらいたい。

事務局：図書館協議会の意見を含めた上でのパブリックコメントにしたいので、その他意見があれば、来週中にお願ひしたい。

(3) その他

特になし